

- 施設野菜経営においては、生産者の高齢化に対応した作業の**合理化や省力化、安定的な生産性の向上が課題**。
- 本県の主要な施設野菜であるピーマン栽培農家において、環境制御技術により**単収20t、低温寡日照（12～2月）の出荷量10%増加を目標に実証**。
- 継続的な実証活動を通じて、令和5年度には施設内のモニタリング装置等の環境制御機器を活用し、**環境制御技術を行う農家232戸**を目指す。

### 具体的な成果

#### 1 ピーマン研究会組織の単収向上



図 研究会別の単収の比較（令和3年度）

#### ■ 情報統合基盤を活用した研究会組織と県平均の単収比較

総収量：7～33%増

寡日照期収量（12～2月）：18～35%増

※なんぐう地区を除く

#### 2 環境測定装置、炭酸ガス発生装置の導入増加（ピーマンのみ抜粋）

■ 研究会組織での実証活動が精力的に実施され単収向上効果が認められたことから環境制御機器の導入が飛躍的に増加

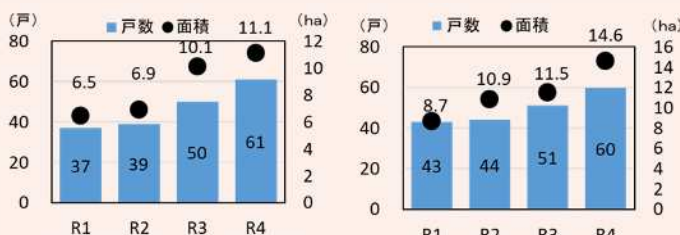


図 環境測定装置（モニタリング）導入状況

図 炭酸ガス発生装置導入状況

#### 環境制御機器の導入状況

R1年 → R4年

ピーマン 37戸 → 61戸(164%)

※他品目含む 127戸 → 203戸(159%)

### 普及指導員の活動

令和3年度

■ **加速化実証プロ（令和元～2年：そお）の成果を活用し、東串良、鹿屋市吾平の研究会組織で環境制御技術の実証活動を支援**

■ **情報統合基盤を活用し、「そお」、「東串良」の研究会組織で生育診断指標を活用した環境操作を指導**

※情報統合基盤：環境データや出荷データをクラウド上で管理

※目標とする生育状態

葉長：15.5cm、1枝着果数：22～26果

■ **「なんぐう」の研究会組織化を誘導**

令和4年度

■ **「なんぐう」の研究会組織で情報統合基盤の活用開始**

■ **炭酸ガス施用や日射比例灌水技術等の実証活動を継続支援**

■ **研究会組織の自主的活動や組織間の情報交換や連携強化**

### 普及指導員だからできたこと

・日頃から連携している先進農業者、関係団体の**協力を得られる環境作り**を行っていたことから、実証活動をスムーズに行うことができた。

・これまでの実証結果から、**農業者が調査しやすい項目を選定**したことで、生育状況の把握が容易になり、**的確な環境操作が可能**となった。